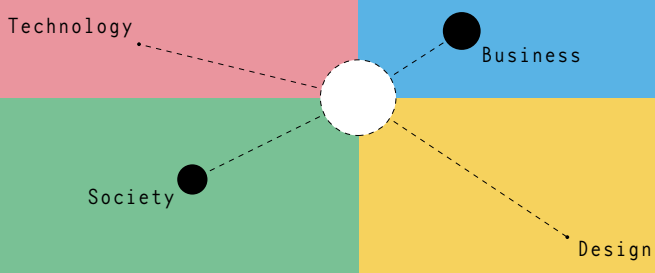


阪本啓一

さかもとけいいち: マーケティング・コンサルタント。大阪大学卒業後、旭化成を経て、独立。渡米し、ニューヨークでコンサルティング会社「Palmtree Inc.」を設立、現在同社CEO。著書「スローなビジネスに帰れ」(小社)「バージョン・マーケティングの未来」(翔泳社)訳書など多数。

www.palmtr.com
surf@palmtr.com



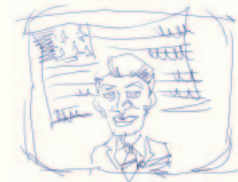
インフォメーション・スローダウン

Me, too

5番街に行こうとして地下鉄に乗っていた。57st駅でかなり長く停車しているの、またテロの疑いで調査しているのかな(最近よくある)と思っていた。週末の午後、車内はすいている。と、ホームから駆け込んできたおっさんが「この電車は急行だから具合が悪い。向かいホームに着いたあちらの電車に乗ろうではないか」と演説を始めた。私を含めた乗客は全員、「何だなんだ?」という顔をしていた。おっさんの横に立っている女性が「だってこの電車は各駅と書いてあるじゃないの」。おっさん「いや、違うんだ」。彼はそれだけ言うと向かいの電車へ。つられて周囲にいた3人もこれに従った。車内の空気が「ここにいてはいけない」に変わった。そこで、皆、そろそろと立ち上がり、ホームを横切って向かいの電車に乗り込んだ。駅は1本のホームをはさんで上りと下りになっている。私たちが乗っていたのは上りだ。冷静になって考えてみると、車内にいる人は皆、上り方面に向かっていたはずなのである。ところが、おっさんの一言についてしまった。結果どうなったか。全員、逆方向に向かってしまったのだ。しかも、次の駅に着いてはじめて、皆気づいた。たしかに9月11日のテロ以来、地下鉄の路線とダイヤは混乱している。それにしても、見知らぬ男の一言によって一車両全員が惑わされてしまったことに、深い恐れを感じた。Me, too、私も、という集団感染。

街は星条旗であふれている。ブティック、デリ、タクシー、バス、ビル外壁、果てはテレビのトークショーの背景にまで。そして人々は胸に星条旗バッヂをつけている。まるで全体主義国家だ。ニューヨークは先進国の中でも「もっとも進んでいる」都市のはず。その行き着く先が、たった1人の男の発言で逆方向の電車に乗り、全員が制服のように星条旗を身にまとうことなのかと、空恐ろしくなった。

そして、この恐怖の根源にあるものは「Me, too」思想だ。流れるプールというのが。そこに身を任せていれば、周囲の人も皆同じ方向に流れているから気が楽だ。しかし、いつのまにか、思いもかけない場所に流されてしまっているのかもしれない。「人種のるつぼ」とされるニューヨークでこのありさま。ひるがえって、もともと「君



はもう買った?」他社さんはどうしているのかな」で意思決定がなされがちな日本人はどうか。

情報ジャンキー(information junkies)

ニューヨーク大学のニール・ポストマンによれば、現代人は「情報ジャンキー」だ。情報を手に入れるが、それを使って何かをすることもできないし、ほとんど覚えてもいない。私はそれに、「疑わない」を加えたい。報道される情報を無条件に受け入れてしまう姿勢は皆、持っているはず。ちょうど地下鉄でつい下りに乗り換えてしまった私たちと同じ。「スローなビジネス」の「スロー」には「これまで自分が知らずしらずのうちに信じきっていた常識をすべて更新してしまう」意味をこめている。情報についても「スロー」に向き合おう。鵜呑みにするのではなく、自分自身のものさしで判断しよう。そして、報道されている内容だけではなく、「されていない、捨てられた」内容についても目配りをしたい。今回のテロ関連情報。ニューヨーク在住の日本人には、英語のニュースよりむしろ日本語のウェブサイトで初めての情報をたくさん知ったという人が多い。戦時国家であるアメリカでは報道規制が厳しくなされているようだ。英語の読める日本人のほうが英語しか読めない米国人より恵まれている。いや、日本語の情報も、もちろん意図的に表に出されていないものがあるだろう。天真爛漫に、情報ジャンキーを楽しめた平和な時代はどうに過ぎた。生き延びるためにも、「スロー」に、自分をまっさらにしてじっくり考え、判断し、進むべき道を選ぼう。

Illustration: Harada Kazu



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp